

綾瀬川エリア

バードサンクチュアリ A-1
新栄町団地東側の綾瀬川右岸一帯は、野鳥の聖域です。野鳥の好む約40種類の木を植えた「鳥と友だち広場」が整備されています。
周辺では、カルガモ、コサザ、シラコバト、ハクセキレイなどの野鳥が美しい風景を演出しています。

くわい田 A-2
草加の特産くわいは明治初期から本格的に栽培が始まり、現在も新田地区で栽培されています。6月下旬に植えつけられ、11月下旬から2月にかけて収穫出荷されます。

綾瀬川沿道 (あやせがわえんどう)
市の北部では西から流れ、その後南下する綾瀬川は、昭和30年代まではホテルが生息するきれいな川でした。近年の再生計画により河川・水辺に美しくみがけられ、流域は市民の憩いの場となっています。
また、鳥居にはワラで作った蛇がかけられ、毎年10月に蛇つづり(蛇ねじりといふ)が行われます。

旭神社 (あさひじんじや) A-3
水川神社と呼ばれてきましたが、明治40年(1907)に社号を改めました。本殿は江戸中期のもので、市指定文化財の登録があるほか、境内には参道入口の力をはじめる数々の石造物があります。
また、鳥居にはワラで作った蛇がかけられ、毎年10月に蛇つづり(蛇ねじりといふ)が行われます。



柿木・そうか公園エリア

東漸院 (とうぜんいん) A-5
室町時代(西暦1500年頃)に、定範によって創建されたといわれる市内最古の寺です。市指定文化財の山門は天明2年(1782)の建立といわれ、山門の左手の薬師堂には高野山の木食僧・恵昌の作と伝わる薬師如来像が安置されています。

そうか公園 (そうかこうえん) A-5
総面積17.8haの広大な園内には、滝や沢、せせらぎのある四季の森や市民の森、遊歩道、多目的運動広場、テニスコート、野鳥や水鳥の集まる修景池などがあります。約300種、2万5000本の木々と樹木、草花等があり、野鳥や昆虫を観察できる自然の宝庫です。公園内側の八条用水沿いにある桜並木は市内の桜の名所の一つとなっています。

女体神社 (にょたいじんじや) A-5
筑波山の女体神社を信仰していた総豊田城の城主豊田氏が、落城後柿木を安住の地と定め、筑波山に向けて北向きに建てられたといわれる神社です。また、城主の作家・豊田三郎の文字碑もあります。



谷塚エリア

辰井川 10 橋 (たつひがわじゅうきょう) C-D-2
辰井川は昭和56年から6年間をかけて掘削された川です。川にかかる橋には、「わたる」という機能のほか、「ながめる」「ふれあう」「ほろこ」という要素を入れ造られ、地域の歴史や周辺の自然と調和する創性的なデザインがほどこされています。
そのうちの6橋は建設省(現在は国土交通省)の「手づくり郷土賞」ふるさとが誇りとする橋部門を受賞しました。

浅間神社 (せんげんじんじや) D-3
江戸時代から富士山を祀る神社として厚い信仰を集め、多くの人に親しまれています。正式名称は富士浅間神社。
現在の本殿は天保13年(1842)に再建されたもので、市指定文化財となっています。毎年7月の第一土・日曜日には宵祭り・祭礼が行われます。

むじなの森跡 (むじなのもりあと) D-1
昔、むじなが住んでいたといわれる新里町の旧家の広い敷地には、多くの大木があり、村人から「むじなの森」と呼ばれていました。その森跡に今もムナがいた大木が残されています。

毛長神社 (けいながじんじや) D-1
創建は不詳ですが、ご神体に「女性の髪の色」を祀る珍しい神社で、享和10年(1725)9月25日に社殿修築の記録があります。
伝承によれば、村の長者の屋敷跡ともいわれ、髪の主はその娘(別説は素戔嗚尊の妹)といわれています。鳥居は水戸徳川家の江戸屋敷から移設したものです。

毛長神社 (けいながじんじや) D-1
創建は不詳ですが、ご神体に「女性の髪の色」を祀る珍しい神社で、享和10年(1725)9月25日に社殿修築の記録があります。
伝承によれば、村の長者の屋敷跡ともいわれ、髪の主はその娘(別説は素戔嗚尊の妹)といわれています。鳥居は水戸徳川家の江戸屋敷から移設したものです。



葛西用水エリア

桜スポット
草加市内にはお花見に最適な場所がたくさんあります。葛西用水桜並木は、例年、桜の時期(4月頃)に桜並木撮影会が行われ多くの人でにぎわいます。(主催:草加市観光協会)

葛西用水 (かいさいようすい) C-D-5
享保4年(1719)、埼玉縣東部の水田灌漑のために造られた用水路です。行田市の利根大堰から足立区へ伸びており、市内では青柳から稲荷の約3.5kmを流れます。かつては水田を潤していた水場として親しまれていました。新橋付近は1.3kmにわたって約400本のツメヨシが並ぶ綾瀬川沿道では桜の名所となっています。

ウオーキングコース
コース1周 約2km 約1時間
稲荷・明子・線・葛西用水・稲荷三丁目・稲荷神社・稲荷上根公園・稲荷小学校・稲荷橋・稲荷五丁目・稲荷北公園・稲荷西公園・稲荷下根公園・稲荷下根神社・稲荷三丁目・稲荷交差点・稲荷南公園・稲荷南小学校・稲荷中学校・稲荷文化センター・川柳文化センター・川柳中学校・川柳小学校・久伊豆神社・三覚院



Translation

QR Translator

QR Translator

Front Back

草加まち歩きマツ

「せんべい・皮革・ゆかたのまち」

国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」

ようこそ 草加へ

元禄2年(1689)3月27日、46歳の松尾芭蕉は、門人の河合曾良を伴い、江戸深川を旅立ちました。後に日本を表す紀行文『おくのほそ道』として結実するこの旅は、日光、白河の関から松島、平泉、象洞、出雲崎、金沢、敦賀と、東北・北陸の名所旧跡を巡り、美濃国大垣に至る600里(2400km)、150日間の壮大なものでした。「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟のしに生をうかべ馬の口とらえて老をむかふ物は、日々旅にして、旅を栖とす。」深川を出た芭蕉は千住まで舟で行き、そこで見送りの人々に別れを告げて歩き始めます。「若生で帰らばと定なき頼の末をかけ、其日漸早加と云指にたどり着けり」こうして芭蕉は、肩にかけの荷物の重さに苦しみながら2里8丁(8.8km)歩き、日光道中第2の宿駅だった草加にたどり着きました。『おくのほそ道』の旅は、このあと、草加から東北へと旅がっていくことになるのです。

制作発行: 草加市
協力: 草加市観光協会
草加宿内人会の会
〒340-8550
埼玉県草加市高砂1-1-1
TEL 048-922-0151(代表)
令和7年10月

リサイクル紙(A) 再生紙を使用しています。
この冊子は、印刷物の裏ペーパーにリサイクル紙を使用しています。

「草加宿案内人会」におまかせください

街中を歩くと、かつての前場の雰囲気を感じさせる商家と白壁土蔵が現れ、寺院には文人墨客たちを偲ぶ碑も多く、札幌河津公園は松尾芭蕉像に数百年の文化と文芸の表現舞台でもあります。数百年の年輪を刻む松原の古木たちは、往来人の喜怒哀楽の表情を語ってくれます。

この魅力と松原の風色を来訪者に紹介するのが、私たちの仕事と想い、グループの希望に合わせコースを設定しております。